

USR のラジオ : 教育カーニバルで何ができるのか

朱俊彦

国立暨南国大大学教育学院 USR プロジェクト事務室プロジェクトマネージャー
国立暨南国際大学国際文化・比較教育学系博士課程後期

教育学院チームは 2018 年から、教育部の大学社会責任実践プロジェクトの実施に参画し、「僻地教育」、「STEAM 教育」、「国際教育」という僻地教育における 3 大課題を通して、「教育アクターの養成」、「K-12 の子どもたちの学習」、「地域社会への参画」という 3 つのレベルについて、水沙連地域の小中学校と協力し、地域教育の発展に注視してきた。また、教育学院の各学科や各大学院とも協力し、大学生が地域の教育活動に参画できるよう、USR の特徴を有するカリキュラムと単位プログラムをデザインしている。フィールドが交錯しており、行動も多様であることから、教育学院 USR プロジェクトは南投県の僻地エリアでネットワークを形成している。これは暨南大学の所在地である埔里鎮を中心として、水沙連地域周辺の仁愛郷、魚池郷などの地域にも広がるとともに、いくつかの注目すべき構想を形成している。

僻地教育については、教育アクターの養成がプロジェクトの重点のひとつとなっている。教育学院チームは発祥小学校と力行小学校と協力し、発祥小学校を拠点として、「力行産業道路」沿いにある僻地の小学校を対象に、教員の養成や教案デザインなどの研修プログラムを継続的に提供している。また、魚池郷学校間教員コミュニティグループと埔里鎮国際教育教員コミュニティグループを運営することで、僻地の交通環境がかかえる問題から派生する教員養成の困難が改善されるものと期待される。K-12 の子どもたちの学習については、教育学院チームは、福興社区信仰的な中心「受奉宮」と金逢源股份有限公司といった企業と連携し、毎週月曜日から金曜日までの放課後学習を継続して推進するとともに、学童向けの英語学習や読む能力、科学教育、料理、親子ベーカリー、屋外キャンプなど、多様な学習コンテンツを提供している。僻地・遠隔地については、チームは遠距離学習システムを運用し、仁愛郷の発祥小学校と力行小学校、そして魚池郷の魚池中学校に対して週 1、2 回の遠距離学習サービスを提供し、中国語（国語）、算数・数学、英語などの科目の勉強をサポートすることによって、僻地教育資源の不足という課題を克服し、子どもたちの学習環境を改善することができるものと期待している。子どもたちへの学習支援では、チームは「カウンセリング実務」、「遊戯療法」といったカリキュラムをも運用し、暨大附属中学校、埔里高級工業職業学校、愛蘭小学校、山城サッカーチームといった学校や組織と協力し、マン・ツー・マンで心理的なサポートやアドバイスを行うなど、さまざまな形で子どもたちのニーズをサポートしていきたいと考えている。

STEAM 教育について、プロジェクトチームは暨大附属中学と長期的な協力関係にあり、USR

プロジェクトと同校の専門的な学科や大学院がもつリソースを活用し、暨大附属中学校にテーマワーク、プログラミング、ロボット制御、アクアポニックス、食農教育などのトピックに特化したカリキュラムを開設している。これにより、学生たちが STEAM 教育に基づく科学的な方法を用いて、地域の課題について考え、ソリューションを導き出せるよう指導し、科学教育によって地域の人文・文化に関心を寄せる姿勢を育成している。例えば、暨大附属中学校の生徒は筑波大学の「つくば Science Edge」に参加したが、そこでマコモダケにスクミリンゴガイが産卵する問題の解決を試み、「スクミリンゴガイ解決装置」を発明したところ、大会で銀賞を獲得することができた。また、地元の農業廃棄物問題については、生徒たちは、マコモダケの茎・葉の部分でネコ砂を作る実験的な構想も提案し、暨南大学のお花見イベントや各種展示会に参加するなかで、おしなべて高い注目と評価を得た。プログラミング分野では、教育学院チームは情報工学学科との協力により、青少年向けの AI プログラミング先修クラスを共同で推進した。USR プログラムのリソースを有効活用することで、AI 時代のデジタルデバイドが縮小されることを期待し、教育リソースの公正な配分を持続的に追求していく。

国際教育面では、教育学院チームは 2023 年、埔里鎮の各小中学校、農家、政府機関と協力し、「山で出会う欧州 ヨーロッパ文化マルシェ」と「ラテンアメリカ・カルチャー・キャンプ」を開催した。埔里鎮図書館や暨南大学教育学院などを会場として、欧州と中南米 10 数か国の文化体験イベントを実施したところ大きな反響があった。ラテンアメリカ・カルチャー・キャンプでは、メキシコ、アルゼンチン、チリ、ペルー、コロンビア、パラグアイ、キューバなどを紹介するとともに、国連の 17 の持続可能な開発目標と連動し、産業、生物多様性の保全、自然環境の保護、言論の自由と民主、ダンスと健康、歴史・文化の各分野で、ステージをクリアしてレベルを上げていくさまざまなゲームを企画した。子どもたちに豊かな国際文化学習体験を提供したいと考えている。「山の都市と欧州の出会い ヨーロッパ・カルチャー・マーケット」では、チームはドイツ、ベルギー、アイスランド、オランダ、イタリア、フランス、デンマークなどの 10 カ国の文化をベースに、国連の持続可能な開発目標 (SDGs) と連動し、子どもたちが周囲と世界に関心をもち、相互の差異を認識できるようにするとともに、多文化理解と多様なエスニシティの包摂の促進を図った。ローカルな国際化 (Logloblization) の手法を通じて、子どもたちに世界市民としての素養を身に付けさせることを期待したものである。私たちは、マルシェの運営において、地元農家や若者が立ち上げたブランドを集め、コミュニティの人々が、衣食住と移動に関する各種の優れた手作り商品に触れる機会を設け、自然や人文に対する配慮や理念を伝えた。

教育学院チームは、プロジェクトを進める過程で、学習課題の多様性、そしてそれが縦横に交錯していることに気づいた。たとえば、放課後の学習は学業の補習に関係すると思われがちだが、子どもたちが食習慣を考えたり、食事を自分で作れるようになることも重要な生

活教育である。また、子どもたちが STEAM 教育やプログラミングを学ぶ際には、地域の問題に裏打ちされることが必然となり、科学技術が地域との対話に持ち込まれることで、教育活動の可能性と拡張性をさらに示すこととなる。かつて、USR プロジェクトでは、定期的な Exposition を成果発表の機会としていたが、教育学院チームは、カーニバルといった方法で親子の共学という要素を取り入れることを好み、教育学院 USR プロジェクトの地域的な視点を表現するという傾向にある。そこで、教育学院 USR プロジェクトチームは、2024 年 5 月 26 日、学内外のリソースと学内の各 USR プロジェクトをまとめる形で、「水沙連親子共学カーニバル」を開催することとした。「手作りの食感、持続可能な暮らし」、「テクノロジーで楽しく学び、安全に探索」、「世界を見、自分を知る」といった 3 つの活動モジュールを通して、USR プロジェクトの段階的な成果を全体的に振り返るとともに、水沙連エリアの親子たちに実際に参加してもらい、USR プロジェクトがどのように地域に適応したか直接体験してもらうようにした。

一、「手作りの食感、持続可能な暮らし」活動モジュール：

土地から食卓まで、これをつなぐのは日々三度の食事だけではなく、家族が持つ記憶の伝承、そして、人と土地との結び付きもある。水沙連エリアは台湾の重要な野菜産地のひとつで、いかに食農教育を活性化させ、子どもたちに貴重で優れた地元の食材や文化、風土を知ってもらい、親子で一緒に協力し、人と土地の密接な関係を再構築するかが、暨南大学の各



写真 1：ゼロから学ぶハンドドリップコーヒーは、魚池中学コーヒークラブの得意分野だ。水沙連親子共学カーニバルは、魚池中学校のお兄さんやお姉さんたちを招き、ハンドドリップコーヒーをまったく経験したことがない子どもたちに体験してもらった。自分で淹れた独特の味がするコーヒーに、魚池の地元の食材による茶菓子と組み合わせることで、地域の食に呼応した教育理念が完成した。

USR プロジェクトチームにとっての重要な活動目標である。チームでは、地元の生産者や職人、良顕堂基金会、管理学院USR プロジェクトに、今回の水沙連親子共学カーニバルに参加しミニマルシェを合同で開いてくれるよう依頼した。子どもたちは、一日のイベントで、ハーブティーやハンドドリップコーヒー、手作りのピザ、カイワレの手巻きずしなど、地元食材の埔里らしさと優れた風味を体験することができた。また、良顕堂基金会、福興小学堂と地元住民が共同で行ったリサイクルマーケットや資源のリサイクルを呼び掛ける再生ワークショップを通して、子どもたちは、埔里のさまざまな人たちがともに健康でより良い生活を築くために行ってきた努力の成果を目にすることができた。

二、「テクノロジーで楽しく学び、安全に探索」活動モジュール：

STEAM とは Science (科学)、科技 Technology (テクノロジー)、Engineering (工学)、Arts (芸術・リベラルアーツ)、Mathematics (数学) という 5 つの重要な学問分野からなり、ここ 10 年で教育の主流となっている。教育学院チームは、今回のカーニバルにおいて、学内の情報工学科、教育政策・行政学科、国際文化教育・比較教育学科、教育学院学士課程、科技学院USR プロジェクト、水沙連学院USR プロジェクト、埔里中学校自造センター、南投県政府警察局、埔里鎮警察署、プロフェッショナル探究教育チームを招聘し、仮想現実 (VR)、防災、安全、消費者教育、環境、手投げ飛行機、マイクロビット (micro:bit)、AI による作曲などのイベントを取り入れ、子どもたちが楽しく科学技術を学び、STEAM の理念によって、未知の世界を探索し、テクノロジー、自然、人文が織りなす活動のモジュールを安全に、そして充実して歩き回るとともに、木登り体験や親子オリエンテーリングといった特徴的なアクティビティーを通して、子どもたちにさまざまな困難にチャレンジするたくましさをもてるように導いた。こうした活動は、デジタル世界と現実の世界が交錯するフィールドを往来するとともに、異なるフィールドをも横断するものである。教育学院チームの目標はまさに、子どもたちが論理的な思考を促し、地域や自分自身の生活の中で直面する現実的な課題に関心を持ち、それを考えるよう促し、将来の地域社会における中核的な担い手として育成することである。

三、「世界を見、自分を知る」活動モジュール：

台湾と国際社会の結び付きは日増しに強まり、世界の発展は私たちの将来にかかわるものとなっているため、国際的な文化は、子どもたちが世界を見るための重要な窓となっている。暨南大学は、過疎・僻地教育と国際教育アクションプログラムを通じて、子どもたちが内な



写真 4：水沙連親子共学カーニバルでは、探検の遊びと国際的な知識を組み合わせ、国際教育体験活動を提供することにより、子どもたちに日常とは異なる学習経験をもたらし、地球や世界の市民としての理念を理解させることが期待されるものである

る自己を認識するとともに、外の世界も学ぶことができるよう指導を続けているが、これは次世代の教育に貢献することを期待している。今回の活動においてチームは、カウンセリング心理学・人材発展学科、国際文化教育・比較教育学科を統合し、子どもたちのために、ドイツ、日本、イギリス、メキシコ、ロシアなど多くの国の国際文化体験を用意したほか、情操に関する本、情操に対する認識、心理コラージュ、情操に関する紙飛行機などを使った感情認識や体力づくりなど、各種のテーマ活動を行った。教育学院チームが活動を行う上で構築したビジョンは、子どもたちに国際的な文化を体験させるとともに、自らの内面を見つめさせることにより、「グローバル・ローライゼーション、ローカル・グローバリゼーション」という理念の実践をうながすことで、子どもたちが国際感覚を有し自己認識力のある新世代の市民となり、親子共学カーニバルの実施を通じて、子どもたちが自分自身を発見し、世界を発見し、未来を発見できるようにするというものである。

教育学院 USR プロジェクトチームは、「教育カーニバルで何ができるのか」という問いに対して、オープンマインドを持っており、いわゆるスタンダードな答えがあるとも、スタンダードな答えが必要であるとも考えていない。カーニバルに参加する子どもと両親との共学のプロセスには、ジョン・デューイの「Learning by Doing—実践による学習」という教育理念の実践を見ることができる。教育学院チームは、ただ単純に行うのではなく、両親が子どもたちと一緒に取り組むようにしたいと考えている。例えば、魚池中学校のハンドドリッポコーヒー体験コーナーでは子どもたちが一からコーヒーの淹れ方を習う。コーヒーの風味は淹れる人やスキルによっても異なるが、このような学習プロセスによってこそ、子どもたちに、コーヒーというテーマが持つ有機性や、大量に複製されるものではないハンドドリッポコーヒーに見られる哲学的な思考が学べるところが現代社会では貴重である。さまざまなアクティビティを組み合わせることにより、プロジェクトチームは子どもたちがさまざまな視点から世界を見ることができる可能性を見出した。たとえば、手投げ飛行機を作る体験では、青空に向かって飛んでいく飛行機を見ていた子どもが、木登りプログラムでは自らの経験から出発し、自らの置かれた位置を転換し、まったく新しい視点から学びを体験することができる。地球市民の第一歩として、このような体験学習とオルタナティブ思考は、かけがえのない貴重な経験となるだろう。



写真 2：水沙連親子共学カーニバルでは、さまざまなアクティビティが用意されており、その中で子どもたちが自分自身の内面を探求し、世界を知り、仲間との協力の仕方を学び、相互理解と相互関係の大切さを発見することが期待されている。

私たちは、このカーニバルは、USR プロジェクトのラジオではないかと考えている。ここでは、さまざまなチャンネルの電波やテーマ、見方を収集するとともに、実践と再考のプラットフォームを構築し、教育課題に取り組むプロセスで、より多くの可能性や、公式の各種教育体制の外にある教育的な発想を産み出している。親子共学カーニバルが何をなし得るかについては、より多くの参加者が協力し、共同でボトムアップ型の創作を行う必要がある。まずは、教育学院がUSR プロジェクトに投じた初心と情熱が、子どもたちにさまざまな教育体験と未来に対するイメージをもたらすことを期したい。